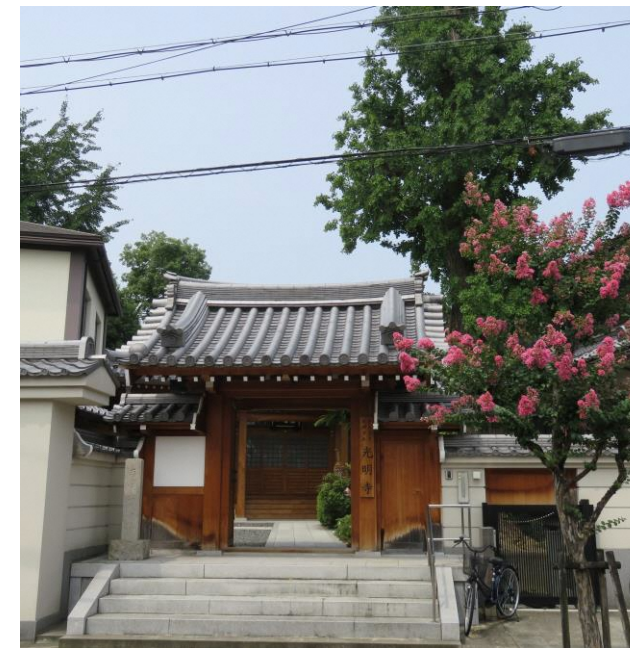
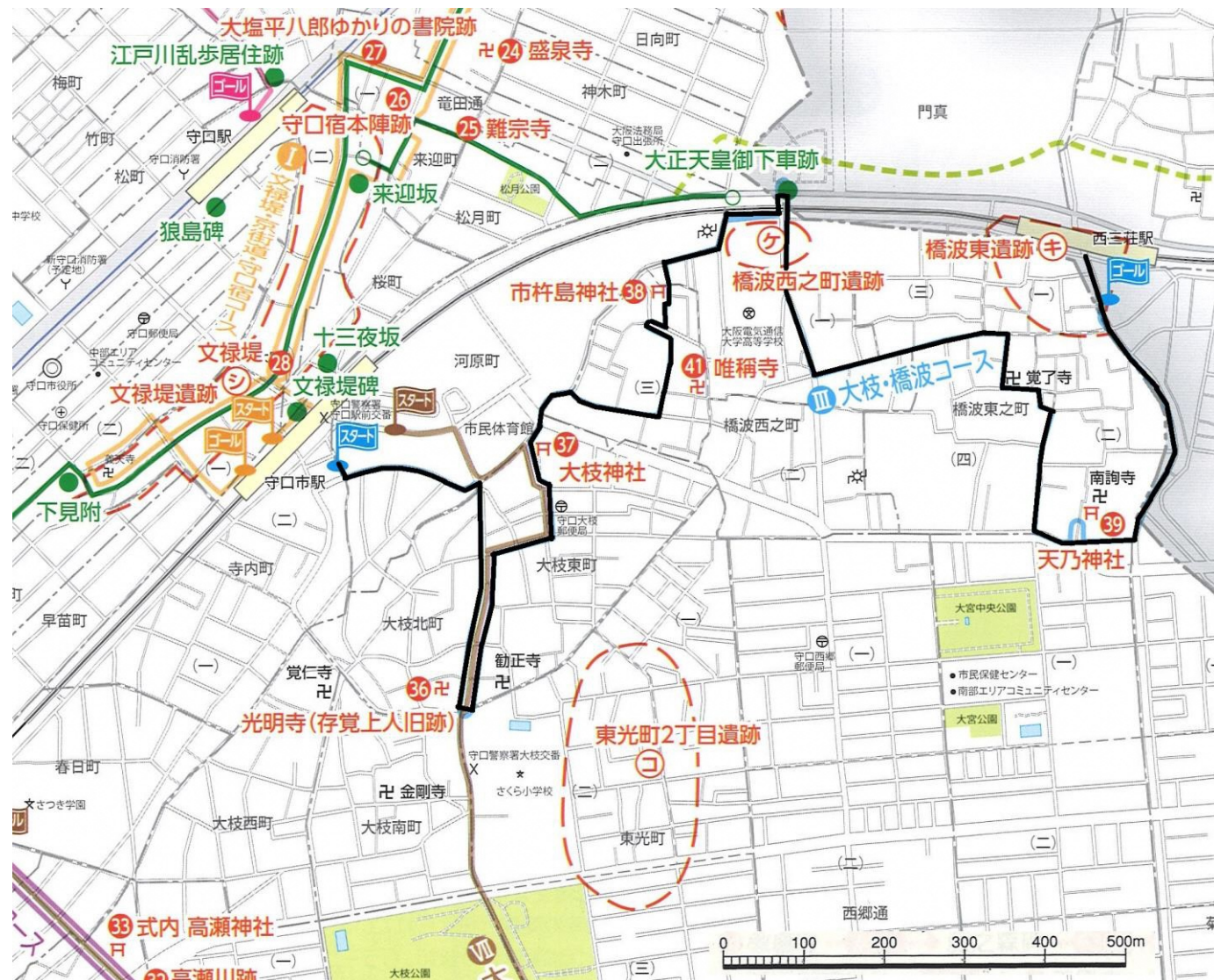


もりぐち ぶらり歩き マップ

史跡散策コースⅢ (楽々)

大枝・橋波コース



おおえだじんじや
③⑦大枝神社



こうみょうじ ぞんかくしやうにんきゆうせき
③⑥(大枝)光明寺 (存覚上人旧跡)



あまのじんじや
③⑨天乃神社



いちきじまじんじや
③⑧市杵島神社



ゆいしやうじ
④①唯稱寺



たいしやうてんのう おげしやあとひ
○大正天皇御下車跡碑

京阪電車守口市駅 - (470m) - ③⑥(大枝)光明寺 (存覚上人旧跡) - (400m) -
③⑦大枝神社 - (300m) - ④①唯稱寺 - (100m) - ③⑧市杵島神社 - (240m) -
○大正天皇御下車跡 - (720m) - ③⑨天乃神社 - (400m) - 京阪電車西三荘駅
(全 2630m)

史跡散策コースⅢ（楽々） 大枝・橋波コース

京阪電車守口市駅－(470m)－③⑥(大枝)光明寺（存覚上人旧跡）－(400m)－
 ③⑦大枝神社－(300m)－④①唯稱寺－(100m)－③⑧市杵島神社－(240m)－
 ○大正天皇御下車跡－(720m)－③⑨天乃神社－(400m)－京阪電車西三荘駅
 (全 2,630m)

(○番号は守口文化財ガイドマップと共通)

こうみょうじ ぞんかくしょうにんきゅうせき

③⑥(大枝)光明寺（存覚上人旧跡）

光明寺は行基創建の高瀬寺塔頭の後裔とも伝えられる寺院である。その後、南北朝時代に、浄土真宗本願寺三世宗主覚如上人の長男（親鸞上人の曾孫）存覚上人が、観応元年(1350)に当地方を教化したとき、廃寺同様になっていた光明寺を再興し、教えを広めた。このことから当寺は北河内地方で最古の浄土真宗寺院でもある。境内のイチヨウやクスノキの古樹も見ごたえがある。



(大枝)光明寺山門



(大枝)光明寺境内
存覚上人旧跡碑

おおえだじんじゃ

③⑦大枝神社

祭神は誉田別尊(応神天皇)で、境内には末社の高吉稲荷神、ならびに東照大権現が祀られている。

創建年代は不明だが、境内の燈籠には元禄16年(1703)と文政8年(1825)、石鳥居は正徳3年(1713)、狛犬は文化2年(1805)、常夜燈は文化10年(1813)の紀年銘があり、江戸時代中期にはすでに存在していたとみられている。

境内の大クスノキも見事である。



境内のクスノキ



大枝神社本殿

ゆいしょうじ

④①唯稱寺

浄土真宗大谷派で、本尊の阿弥陀如来立像は室町時代末期～江戸時代初期の彫像とみられ、市内の真宗寺院では最も早く木仏の本尊を安置した寺の一つといわれている。現本堂の建立は、寛政7年(1795)寄進の喚鐘の事を記した木札があることなどから、この時期をあまり遡らない頃と推定されている。当初は、藁葺の屋根で外観が民家と変わらない集会所的な建物だったが、恵明の時代に至り(19世紀中頃)上位の真宗寺院内陣正面の構えを取り入れ、真宗の本堂としての形に整えられた。



唯稱寺

たいしょうてんのうおげしゃあとひ

○大正天皇御下車跡碑

明治43年(1910)10月、大正天皇が皇太子時代に、淀川で行われた工兵特別大演習の視察のため、京阪電車で守口に來られたが、淀川に近い駅がないため、守口ー門真間に仮設の駅が設営された。それがこの場所になる。

演習を視察したのは守口市新橋寺町の淀川堤上で、その場所には御野立所碑がある。

大正天皇が仮設駅から淀川まで行くために、この時に竜田通が造られた。



大正天皇御下車跡碑

いちきじまじんじゃ

③⑧市杵島神社

橋波西之町の北西部、唯稱寺の北側に鎮座する。祭神は市杵島姫命。民家に挟まれた細い参道の先に境内地があり、地元では「弁天さん」と呼ばれている。市杵島姫は宗像三女神の一柱で、皇孫邇邇芸命を養育したことから、子供の守護神として崇敬されている。のちの神仏習合では弁財天とされた。



市杵島神社

あまのじんじゃ

③⑨天乃神社

祭神は素戔鳴尊・誉田別尊・菅原道真公であり、天乃は天農とも書かれ、江戸時代には天神社・天神宮と呼ばれていた。寛文10年(1670)に当地方を領有していた竹内門主親王によって、祭神である菅原道真公の木像を授けられ、社殿を改築したとされる。

現本殿内に安置されている旧本殿は、柿葺一間社春日造で、向拝に臺股2箇を並べた類例のない形式で、江戸時代初期を下らない特徴がよく示されている貴重な建造物である。



天乃神社境内